



部長先生インタビュー

東海大学医学部外科学系整形外科学 渡辺 雅彦主任教授

—— 同門会員で女性会員数は何名でしょうか？

2022年2月現在、現役領域員が9名、同門会員が9名在籍しております。

—— 貴教室のホームページでは、研修コースが丁寧に示されていますが、産休・育休・介護休暇などで中断せざるを得ない場合も、この研修コースに速やかに戻ることは可能でしょうか？

産休・育休明けは時短勤務で外来業務を中心に担当していただき、ある程度子育てや介護が落ち着いた時点で、本人から研修コースへの復帰希望があれば可及的速やかに対応が可能です。

—— 初期研修期間中メンター制度（指導医が、研修医の相談役を務める）のようなものはありますでしょうか？

メンター資格を持った指導医を研修医が逆指名し、日常診療上の疑問や研修終了後の進路に加え、プライベートも含めて気軽に相談できる体制をとっております。

—— 専門領域を決めるにあたっては、本人の希望はどの程度考慮されるのでしょうか？

専門領域は完全に個人の自由意志に従い選択・決定しています。

—— 地域的に遠方への赴任も多いのではないかと推測されますが、育児・介護などの家庭的な状況も考慮されるのでしょうか？

現在、関連病院はほとんどが神奈川県・東京都を中心とした首都圏にあり、遠方への赴任は限られております。家庭的な事情を十分考慮し、遠方には単身者や希望者が赴任するケースが多いです。

—— 専門性を追求するにあたり、短期・中期の国内留学のような研修制度はありますか？

最近では国立がん研究センターへ1年間国内留学をさせていただいた者がおります。また海外留学についても主に基礎研究を目的として米国・英国・スイス・カナダ等への留学実績があります。

—— 産休・介護休などで、長期休職後の臨床への復帰にあたり、支援体制はつくっておられるのでしょうか？

産休・育休明けは時短勤務で外来業務を中心に担当していただき、無理のない範囲で勤務していただいています。臨床復帰後は本人の体調と意向を最大限尊重しますが、なるべく定時で帰宅させること、当直業務の免除などを心掛け、医局員一丸となってサポートしております。

—— 最後に医学生・研修医の先生・女性医師への応援メッセージをお願いいたします。

東海大学医学部の目標は「良医を育てる」ことです。私どもは良整形外科医を育むことを考えながら、日々の臨床・研究を若い先生たちと取り組んでいます。臨床医として運動器に関する知識や技術の習得はもちろんですが、社会人として高い倫理感と常識を身につけるよう指導しています。

東海大学整形外科には脊椎、肩関節、手・肘外科、股関節、膝関節、腫瘍などの診療・研究グループがあり、年間の手術件数は約 1800 件です。また「基礎医学と臨床医学の融合」を目標として、活発に基礎研究を行っています。再生医療を中心とした脊髄、椎間板、軟骨、骨格筋に関する研究を行っており、中でも椎間板、軟骨は他大学に先駆けすでに臨床応用が行われ、世界的にも素晴らしい研究成果を挙げています。高度救命救急センターを有する本学では数多くの重度外傷が搬送され、その治療を経験することも出来ます。さらに本学は体育学部を有するスポーツの盛んな大学でもあり、柔道やテニスの全日本チームの帯同をはじめ、多くの種目のサポートを行っています。

東海大学整形外科は他大学出身者や女性医師も多く、多様性を有していることが特徴です。臨床・研究で忙しいのは事実ですが、底抜けに明るい仲間たちとわいわい楽しく皆さんのキャリアを始めましょう。見学やお問い合わせは随時受け付けています。ご連絡を心からお待ちしております。

医局ホームページ <http://ortho.med.u-tokai.ac.jp/>